

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム これび(つつじユニット)		
所在地	磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和3年6月26日	評価結果市町村受理日	令和3年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2296900083-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年7月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活が送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、平行棒の歩行や手すりを持った訓練をやっています。コロナウイルスの感染により外出は中止していますが、施設の駐車場で外気浴や日光浴を行っています。施設の中で季節感を感じたり、楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スライディングボードを各ユニットに1台ずつ購入するほか、センサーを十分設置することで職員の心身の負担軽減に気遣い、また「いいところ探し」を通じて毎月仲間から一言メッセージをもらえる仕組みも効果的なモチベーションアップとなり、心身ともに重度化が進む利用者への支援に職員一丸となってあたっています。「月1回は大きな行事をしよう」と4ヶ月毎にレク担当を交代で置き、以前できたことができなくなっても職員がパーツを用意、出来なくても「季節を感じてほしい」として梅雨にはカエルの折り紙を蓮の葉に投げてのせるゲームを考案するなど、日夜尽力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示している。職員の心得は休憩室に掲示している。又、職員研修を通して意識付けをしている。今年は、職員同士でいいところ探しをやっている。毎月いいところを捜し本人に書面で渡している。	理念(事業所では「職員の心得」と呼ぶ)を推進する一つとして、職員間で「いいところ探し」を始めています。毎月仲間から一言メッセージをもらえる仕組みにより、管理者が気づかなかった良い面の掘り起しにもなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2年前まで夏祭りには、沢山の家族に参加してもらっていた。秋祭りには、屋台を駐車場でみたり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアの慰問や中学生の福祉実習も受け入れている。現在は中止している。	災害時の福祉避難所にもなっていて、床下浸水が心配される3家族を実際受け入れた例も過去にはあり、地域から頼りとされています。コロナ禍で交流ができにくくありますが、交替した自治会長が挨拶に訪れてくださるなど、これまでの積み重ねが活きています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2年前まで認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。2年前、掛川市で認知症家族の会と女性の会で管理者が講話した。毎年職員研修で認知症の勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	磐田市から運営推進会議については中止とし、文書による情報提供、報告を持って、開催されたものとなりますと連絡があったので、議事録は市役所や包括に訪問し届けている。	コロナで集まることはできていませんが、管理者が現状を書面にまとめ、メンバーへと事業所情報を届けています。「届けた時に意見をもらえたら」とは思うものの、実際施設内を見ることがないため特に何かということはありません。	書面開催の書面には、現状がよりわかるよう写真も入るとなおいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況を報告している。中部包括で施設紹介の本を作成したので、協力した。コロナウイルスのクラスターが発生する施設があったので、市の方に来て頂き、もしクラスターが発生したらゾーニングはどのようにしたらよい相談し、指導してもらった。	「クラスターがでたらどうしたらいいか」について不安でしたが、ゾーニングなど具体的な手法について市役所派遣の保健師が事業所で直接指導くださり、大変勉強になっています。昨年実地指導がありましたが、指摘事項なしで終わっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいたが入居者で職員に危害を加える方がおり職員も6ヶ月以上我慢していたが、職員の身体に傷が出来拘束をする事になった。身体拘束等適正委員会で承認してもらい家族に了解を頂いた。3か月で中止した。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に定期開催できています。また今期は職員と他の利用者の安全確保のためやむを得ず身体拘束に至ったケースがありましたが、家族の了承を書面で得るほか、解除へ向けた協議内容も記録に残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の高齢者虐待防止のための指針を作り虐待防止委員会を開いている。施設全体で虐待の防止に努めている。利用者が入浴時は観察し、内出血や傷に注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が日用品を持って来た時、利用者の様子を伝え、家族から要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。	一人ひとりの1ヶ月の健康面、生活面、写真を「こもれび通信」に盛り込んで家族に送っていて、イラストも入り色鮮やかで面会できにくい中の安心財と成っています。家族が兄弟姉妹へコピーして送っているという例もある程です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎月二之宮で管理者と会議を開き、困った事など相談ののってくれ対応を考えてくれる。管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。	「いいところ探し」の効用から利用者の声かけや掃除などにおいて職員の意識した行動が見られるようになっており、管理者が良い面をよりよく把握、評価することでコミュニケーションとモチベーションの向上にもついています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がなるべくないようにしている。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。家族状況、体調にあわせて勤務を変えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修を毎月行い学べる機会を設けている。介護福祉士取得には、法人より実務研修の費用の半分の補助が出ている。ミャンマーの技能実習生を受け入れて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者と毎月話し合いを持ち、施設内での困った事や職員の相談に乗っている。忘年会は中止になった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は、本人の不安が強いのので、安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭き、コップ洗い、縫物など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの感染数に合わせて、対面式の面会にしたり、リモートにしたり、ガラス越し面会にしている。東京に住まいの一人娘とはラインでテレビ電話をしている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスにより外出はできていません。子供、兄弟、孫、友達の面会は続いている。お正月には、全員年賀状を家族に出している。家族と交換日記をしている方や絵手紙を定期的に送ってくれる方もいる。	これまではリモートでしたが、利用者のワクチン接種も終わったことから硝子越しの面会を再開させ、本人も家族も飲んでいきます。東京に住む家族が訪問できないことからLINEで話すのを職員が手伝ったり、ビデオで撮影したものを送るなどの支援もおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子もある。話が少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の家族と外で偶然会う事があった。とても感謝された。又他の家族から、退所した方がここはとても良いと言っていると話を聞いた。退所する時、今までの本人のみ写っている写真があるので、希望する方にはUSBカードに入れて渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った支援が出来るようにしている。	区変をかけていないので平均介護度は2.8ですが車いすを利用する人が10名、センサー導入は14台となっています。重度化が進んでいることから明瞭な意見は挙らないものの、職員との関係も長く、会話を愉しめる環境にあることで気持ちの確認もできています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族やケアマネから情報収集している。今まで使用していた、椅子やダンスを使用している方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や体力に合わせて午前のみ臥床する人、午前と午後臥床する人などいる。帰宅願望、被害妄想のある人には、その都度説明している。不定愁訴のある方にも対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。	カンファレンスは介護支援専門員を中心に職員間で実施しています。頻繁な家族は週1回、少なくとも月1回は消耗品の補充等で来訪があるため、コロナ禍にあっても介護計画の内容確認について家族と直接話し合うこともできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は今年の1月からiPadし、職員全員が利用者の様子がわかるようになった。血尿が出た時、怪我をした時など写真を撮り、看護師や主治医に報告している。申し送りは、朝、夕2回行なっている。さらに、変わった事は連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	バイタルに異常がある時は、頻回に測定している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを家族に依頼し持ってきてもらっている。介護靴ではなく、おしゃれな靴を履いている人もいる。紙パンツでなく、布パンツにしてほしい家族の要望に応じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	4月に近くの花見に行ったがそれ以外は外出していない。以前は苺狩りがつつじやコスモスや紅葉に出掛けていた。又、入居者の家族の家のバラを見に行った事もあった。ボランティアも中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は、休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、いつでも対応してくれる。コロナワクチンも協力医が接種してくれた。体調を知っているので安心だった。	毎月1回、24時間対応の協力医の訪問診療がおこなわれています。夜中のコールでも往診くださり、常に丁寧な対応の協力医と看護師の管理者とで安心の医療環境にあります。またワクチン接種も協力医が事業所まで出向いてくださり、完遂しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、支持を仰いでいる。夜間などは写真に撮って次の日に報告している。職場内に看護師がいるので、褥瘡措置、浣腸など医療行為がいつでもできています。入浴時皮膚の状態をみてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は当日に入院サマリーを送っている。退院時は病院の地域連携室の相談員から状態を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、延命治療の有無や、看取りをどこで迎えたいか聞いている。重度化や終末期は、家族と協力医と事業所は話合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援している。看取りを行っている。協力医は24時間対応できる体制をとってくれている。	協力医は朝駆け、夜討ちは当たり前とする赤ひげ先生で、看取りも心配なく取り組めており、昨年は2名のお見送りを無事おえています。また折りのカンファレンスの代わりに職員にはアンケートをとって、気持ちの整理や意向確認を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が職員に応急手当や初期対応の勉強を行っている。AEDが施設内にあるので、年に1回使用方法を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者が参加し避難訓練を行った。消防署の立ち合いは中止した。地元の防災訓練は参加していない。磐田市の福祉避難所となっている。大雨の時、近所の方3世帯が避難してきたので一晩泊まってもらった。	年2回、欠かさず訓練をおこなうほか、飲料となるタンクや発電装置もあり、ランタンは入居時に持参してもらうなど必要備品を整えています(食糧備蓄は給食の業者が担当)。水害対策マニュアルを整え、原則垂直避難としています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ事を何度も言ったり、介護抵抗があったり、暴言があったりしますが、まずは否定せず、受け入れ、説明している。紙に書いて説明している。部屋やトイレに鍵をかける人には、職員が入らないようにしている。	居室に鍵をかけて就寝する利用者が汚れ物を自分で洗濯したり、隠してしまうことが続き、不衛生への懸念もあって逐一確認したいところですが、本人の羞恥心やプライバシーを確保しながらの支援に尽力しています。	現状力を尽くしていることは理解できる一方で、症状の原因と対策的なことはないため、センター方式など紐解くものを導入して、アセスメントをさらに深めることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や、運動を行っている。興味ある事や得意な事やってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースでベッドで休んだり、テレビを見たりし自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをしている。女性は、化粧水を付けている人がいる。本人の意志で服を選んでいる人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はおやつを入居者と職員と作っていたが、感染拡大しないように現在は自分の物だけ作っている。お寿司が好きな方のリクエストでお寿司をとり、寿司パーティーをやった。	1階厨房で給食業者が全館の献立をまかなっていて、刻みやとろみは業者がおこなっています。食事介助の対象者も増え、口に運べない、遊んでしまう、寝てしまうなど症状は様々で、本人はわからないかもしれない場合でも言葉を掛けながら介助しています。	とろみや刻みは日々の連携で成り立っていますが、備蓄チェックや利用者の好みも含み、半年に1度程度は給食会議が業者とあるとよいと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、対応している。ソフト食1名、刻み食11名、トロミ付き9名いる。食事が少ない人は栄養ドリンクを飲んでいる。現在、栄養ドリンクを6人飲んでいる。体重測定して管理している。スプーンも本人に合ったものを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。スポンジブラシを使っている人もいる。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録している。放尿や便を床にする人もいる。便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れて行っている。日中はトイレ、夜間はベッド上でおむつ交換をする人もいる。夜間センサーでトイレ誘導している。	排泄を所定の場所できなくなってしまう人、部屋にトイレトペーパーを持ち込んでしまう人、トイレに異物を流す人、認知症が進み排泄のトラブルが日常茶飯事ですが、気になる汚れには夜中でもシャワー対応する臨機な職員に管理者は常に感謝しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。朝、ヨーグルト、ヤクルト、ジョアを飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、曜日を変更している。又、拒否の強い人には、早くから説明し入浴の心づもりをもらっている。職員も変えて声掛けをしている。状態により、機械浴、一般浴、シャワー浴、清拭をしている。	重度化しているものの車いすのまま浴槽に浸かることができる機械浴はつかわず、本人の希望でシャワー、時には2人介助で湯に浸かるなどと、選ぶことができます。職員と二人だけの時間をもつことで本音をいう機会になるとともに、内出血や湿疹の発見も叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。薬は同法人からもらっているの、薬の疑問は薬剤師に聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広告のごみ箱作りや、縫物の得意な方にやってもらっている。生活の中で洗濯干しや畳み、洗い物をしてもらっている。家族に好きなチョコやアイスやコーヒー、梅干しを持って来てもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は、今年の4月に近くに花見と、受診のみだった。隔日ごとに天気の良い日は、施設内駐車場で日光浴と外気浴をしている。	コロナ禍で外食はできませんが、回転寿司に行った気分が桶の寿司を皆で囲んだ日もあり、4月には土手沿いを散策してさくらの花見もおこなっています。2日に1度は外気浴として駐車場まで降り、風にあたり「気持ちいいね」と会話することで表情も晴れやかになってゆきます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人本人がお金を持って安心感を得るために、お金を所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。毎月絵手紙を送ってくれる人がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。コロナの感染予防の為、1年中窓を開けながら、エアコンで温度調整をしている。又、朝、夕2回手すりなど消毒をしている。	桜や紫陽花など毎月壁画で季節を表し、華やかな雰囲気とともに会話につなげています。手すりをはじめ接触ポイントの消毒を増やし、1日中窓は開けて換気に努めていますが、パーティションは利用者の不穩を招くため断念していません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席を変えている。以前は、2ユニット合同レクをやっていたが、感染予防の為に合同レクはなるべくやめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、ラジオなどがあり、配偶者や思い出の家族の写真、母の日に送ってもらった品物が飾ってある。本人が編んだレースなど使用している。	洗面所を汚染してしまう利用者の居室は、排水口ネットを交換するなど日々対応に余念がありません。また感染があったときに備え、陰圧装置(空気を外へ廃棄する)を一部屋分設置、家族にはコロナがでたらその部屋と居室交換してもらうことを口頭で了解を得ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用し、下肢の運動を実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。センサーを6台設置し転倒を予防している。コロナウイルスの感染に備えて陰圧装置を一台利用者の部屋に設置した。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社 健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホーム こもれび(くすのきユニット)		
所在地	磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和3年6月26日	評価結果市町村受理日	令和3年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2296900083-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年7月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活が送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、平行棒の歩行や手すりを持った訓練をやっています。コロナウイルスの感染により外出は中止していますが、施設の駐車場で外気浴や日光浴を行っています。施設の中で季節感を感じたり、楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スライディングボードを各ユニットに1台ずつ購入するほか、センサーを十分設置することで職員の心身の負担軽減に気遣い、また「いいところ探し」を通じて毎月仲間から一言メッセージをもらえる仕組みも効果的なモチベーションアップとなり、心身ともに重度化が進む利用者への支援に職員一丸となってあたっています。「月1回は大きな行事をしよう」と4ヶ月毎にレク担当を交代で置き、以前できたことができなくなっても職員がパーツを用意、出来なくても「季節を感じてほしい」として梅雨にはカエルの折り紙を蓮の葉に投げてのせるゲームを考案するなど、日夜尽力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示している。職員の心得は休憩室に掲示している。又、職員研修を通して意識付けをしている。今年は、職員同士でいいところ探しをやっている。毎月いいところを捜し本人に書面で渡している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2年前まで夏祭りには、沢山の家族に参加してもらっていた。秋祭りには、屋台を駐車場でみたり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアの慰問や中学生の福祉実習も受け入れていた。現在は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2年前まで認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。2年前、掛川市で認知症家族の会と女性の会で管理者が講話した。毎年職員研修で認知症の勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	磐田市から運営推進会議については中止とし、文書による情報提供、報告を持って、開催されたものとなりますと連絡があったので、議事録は市役所や包括に訪問し届けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況を報告している。中部包括で施設紹介の本を作成したので、協力した。コロナウイルスのクラスターが発生する施設があったので、市の方に来て頂き、もしクラスターが発生したらゾーニングはどのようにしたらよい相談し、指導してもらった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいたが入居者で職員に危害を加える方がおり職員も6ヶ月以上我慢していたが、職員の身体に傷が出来拘束をする事になった。身体拘束等適正委員会で承認してもらい家族に了解を頂いた。3か月で中止した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の高齢者虐待防止のための指針を作り虐待防止委員会を開いている。施設全体で虐待の防止に努めている。利用者が入浴時は観察し、内出血や傷に注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解・納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が日用品を持って来た時、利用者の様子を伝え、家族から要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎月二之宮で管理者と会議を開き、困った事など相談ののってくれ対応を考えてくれる。管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がなるべくないようにしている。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。家族状況、体調に合わせて勤務を変えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修を毎月行い学べる機会を設けている。介護福祉士取得には、法人より実務研修の費用の半分の補助が出ている。ミャンマーの技能実習生を受け入れて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者と毎月話し合いを持ち、施設内での困った事や職員の相談に乗ってくれている。忘年会は中止になった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は、本人の不安が強いので、安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭き、コップ洗い、縫物など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの感染数に合わせて、対面式の面会にしたり、リモートにしたり、ガラス越し面会にしている。東京に住まいの一人娘とはラインでテレビ電話をしている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスにより外出はできていません。子供、兄弟、孫、友達の面会は続いている。お正月には、全員年賀状を家族に出している。家族と交換日記をしている方や絵手紙を定期的に送ってくれる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子もある。話が少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の家族と外で偶然会う事があった。とても感謝された。又他の家族から、退所した方がここはとても良いと言っていると話を聞いた。退所する時、今までの本人のみ写っている写真があるので、希望する方にはUSBカードに入れて渡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った支援が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族やケアマネから情報収集している。今まで使用していた、椅子やタンスを使用している方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や体力に合わせて午前のみ臥床する人、午前と午後臥床する人などいる。帰宅願望、被害妄想のある人には、その都度説明している。不定愁訴のある方にも対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は今年の1月からiPadし、職員全員が利用者の様子がわかるようになった。血尿が出た時、怪我をした時など写真を撮り、看護師や主治医に報告している。申し送りは、朝、夕2回行なっている。さらに、変わった事は連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	バイタルに異常がある時は、頻回に測定している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを家族に依頼し持ってきてもらっている。介護靴ではなく、おしゃれな靴を履いている人もいる。紙パンツでなく、布パンツにしてほしい家族の要望に応じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	4月に近くの花見に行ったがそれ以外は外出していない。以前は苺狩りがつつじやコスモスや紅葉に出掛けていた。又、入居者の家族の家のバラを見に行った事もあった。ボランティアも中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は、休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調が悪い時は、いつでも対応してくれる。コロナワクチンも協力医が接種してくれた。体調を知っているので安心だった。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、支持を仰いでいる。夜間などは写真に撮って次の日に報告している。職場内に看護師がいるので、褥瘡措置、浣腸など医療行為がいつでもできています。入浴時皮膚の状態をみてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は当日に入院サマリーを送っている。退院時は病院の地域連携室の相談員から状態を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、延命治療の有無や、看取りをどこで迎えたいか聞いている。重度化や終末期は、家族と協力医と事業所は話合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援している。看取りを行っている。協力医は24時間対応できる体制をとってくれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が職員に応急手当や初期対応の勉強を行っている。AEDが施設内にあるので、年に1回使用方法を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者が参加し避難訓練を行った。消防署の立ち合いは中止した。地元の防災訓練は参加していない。磐田市の福祉避難所になっている。大雨の時、近所の方3世帯が避難してきたので一晩泊まってもらった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ事を何度も言ったり、介護抵抗があったり、暴言があったりしますが、まずは否定せず、受け入れ、説明している。紙に書いて説明している。部屋やトイレに鍵をかける人には、職員が入らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や、運動を行っている。興味ある事や得意な事やってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は本人のペースでベッドで休んだり、テレビを見たりし自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをしている。女性は、化粧水を付けている人がいる。本人の意志で服を選んでいる人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はおやつを入居者と職員と作っていたが、感染拡大しないように現在は自分の物だけ作っている。お寿司が好きな方のリクエストでお寿司をとり、寿司パーティーをやった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、対応している。ソフト食1名、刻み食11名、トロミ付き9名いる。食事が少ない人は栄養ドリンクを飲んでいる。現在、栄養ドリンクを6人飲んでいる。体重測定して管理している。スプーンも本人に合ったものを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。スポンジブラシを使っている人もいる。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録している。放尿や便を床にする人もいる。便意、尿意が訴えない方は、時間で誘導したり、様子からトイレに連れて行っている。日中はトイレ、夜間はベッド上でおむつ交換をする人もいる。夜間センサーでトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。朝、ヨーグルト、ヤクルト、ジョアを飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、曜日を変更している。又、拒否の強い人には、早くから説明し入浴の心づもりをしてもらっている。職員も変えて声掛けをしている。状態により、機械浴、一般浴、シャワー浴、清拭をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備(居室の温度、湿度、灯り等)安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。薬は同法人からもらっているの、薬の疑問は薬剤師に聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広告のごみ箱作りや、縫物の得意な方にやってもらっている。生活の中で洗濯干しや畳み、洗い物をしてもらっている。家族に好きなチョコやアイスやコーヒー、梅干しを持って来てもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、今年の4月に近くに花見と、受診のみだった。隔日ごとに天気の良い日は、施設内駐車場で日光浴と外気浴をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人本人がお金を持って安心感を得るために、お金を所持している人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいます。時々手紙を出している方もいます。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。毎月絵手紙を送ってくれる人がいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。コロナの感染予防の為に、1年中窓を開けながら、エアコンで温度調整をしている。又、朝、夕2回手すりなど消毒をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席を変えている。以前は、2ユニット合同レクをやっていたが、感染予防の為に合同レクはなるべくやめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、ラジオなどがあり、配偶者や思い出の家族の写真、母の日に送ってもらった品物が飾ってある。本人が編んだレースなど使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用し、下肢の運動を実施している。くすのきつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。センサーを7台設置し転倒を予防している。コロナウイルスの感染に備えて陰圧装置を一台利用者の部屋に設置した。		